

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

本年11月20日は、ジョージ・アダムスキーが、米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠で、金星人オーソンとコンタクトをして70周年となります。

時は、1952年11月20日ですから、アダムスキーは61歳とまだ元気なところで、以来、約13年にわたり異星人とのコンタクトを続けました。

アダムスキーのコンタクトは、偶然のものではなくスペース・プログラムの一環として、少なくとも2千年前には計画されていたものと思われます。その目的は、地球人を本来の生に立ち戻らせることにあります。そのためにアダムスキーは、スペースピープル（SP）から様々なことを教えられました。

主な内容は次のとおり。①「宇宙は生命で満ちている」、②「宇宙の意識が万物を創造しそれに従うことで平和になる」、③「宇宙船開発を進める」、④「原子爆弾の実験は危険である」ということです。このことを感じ、理解できるよう「生命の科学」も伝えました。

そして、地球人が、この四点を認め実践するなら、彼らスペースピープルが地球人と交流することや、宇宙船開発を支援することなどを約束しています。

実際、アダムスキーは、地球上の主要な各国政府等へ彼らからの書簡を届けましたが、核廃絶などに同意できず、その受け入れを否定しているというのが事実であると理解しています。加えて、「宇宙の意識」がいわゆる「神」に相当するとなると、既存の宗教に影響が出ることや人心を操ることが困難になるなど、難しい事態が想定されることもマイナス要因であったでしょう。

いずれにせよ、このようなことから、アダムスキーの体験した事柄をすべて否定するように、各国が連携していると見られます。しかし、いつまでもこのようなことは続かないでしょう。アダムスキーが伝えた事柄は、真実でありますから遠からず進展があるものと期待しています。

このようなことから、本会は、彼らとの交流時代を見据えつつ、アダムスキー肯定者が減ることなく、出来れば意欲を失わず研鑽できるよう支援することとしています。

“言葉に注目”

<自分で自分を救わない限り、だれも自分を救ってくれないのです>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーの最後の公演とされる中での言葉です。この次に、「これは他人が自分に代わって食物を食べてくれて、しかも自分が満腹しないのと同様です。」と書いています。続いて、「したがってあなたがたを救ってやろうとしたり、それがどんなに美しいかを語ったりする人々を信用してはいけません。」とし、「特にブラザーズと称する人々がやって来て、あなたを救い出してくれると言う言葉を信用しないことです。」と語っています。

このような話に真実は全く存在しないというのです。こうした話は危険であるということに加え、「自分自身で自分を救う」という基本を強調しているのだと思います。これは、だれにでも当てはなる真理であると思われます。心して生きて行きたいものです。

「生命の科学」学習のポイントPart96

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「二種類の人間」です。

初めに、「信じることは生活で最も重要な要素です。」と書き、その理由を「多数の人が自分自身や人類の改善に関心を持っているからです。」としています。

続けて、他人を信ずるべきと書いています。「信じることは重要であるのは、他人を信じないと争いは絶えず、国としては戦争になることが予想されることから分かります。

次に、「各人は自分の潜在能力を常に思い出せる意識による感じに従うことを知る必要があります。」と、信じることと共に意識による感じに従えと書いています。

そして、宇宙的細胞と異常な細胞に言及し、宇宙的細胞が万物の基本的力で、増殖作用によってそこから二番目の細胞を生み出すと説明します。その細胞は、宇宙的細胞と同様な能力を有していると言いますが、ここでは異常な細胞について言っているようです。

つまり、宇宙的細胞が異常な細胞を生み出していると解釈されます。この文章からは、異常な細胞が増殖作用で子孫を増やしているのではなく、宇宙的な細胞が、異常な細胞を生み出していると理解するようです。

ですから、異常な細胞を増殖させないということは、宇宙的な細胞が異常な細胞を生み出さないようにするということだと思えます。そして、既に触れているように、異常な細胞が宇宙的細胞へ変わるとするのは、異常な細胞が心の支援によって化学的変化を起こし、異常細胞が死滅して宇宙的細胞を生み出している可能性があります。

この異常細胞は、外来細胞とか物欲細胞と言われますが、これを増殖させると自己の宇宙的正体を埋没させ、病気を引き起こすと言っています。この説明は、地球上にはない「宇宙的知識」です。それを理解して、外来細胞を減じ宇宙的細胞を増殖していきたいものです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編96>

“ 大海の一滴 ”

果てしもなく広大なところに、非常に小さなものがあるようすを意味しています。しかし、それは小さいだけで確かに存在しています。アダムスキーの伝えた事柄も、絶やすことなく山椒のようにピリッと存在感を持てるようにしていきたいものです。



Q：核廃絶の活動はしないの？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：核爆発実験等については、危険であるとスペースピープルがアダムスキーを通して地球人へ警告しています。アダムスキーは、そのことを各国政府へ伝えたようですが、自己の活動においては行いませんでした。その理由を考える必要があるようです。

書物紹介

『新世界秩序と日本の未来』 姜尚中・内田樹 著 集英社新書

本書は、ロシアのウクライナ侵襲前に書かれたものです。テーマを基にお二人が対談する形式です。コロナ禍となり、アメリカはバイデン大統領という新政権の下で国際協調路線を進め、中国は、多くの問題を抱えながら「ワクチン」外交を進めて来た。この米中二大国の覇権抗争など、世界情勢が大きな変化をとげている中で、日本は、どのような政策を進めていくのか。過去の政策を振り返りながら、諸国の動きを見定めつつ議論が交わされます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2022年11月12日(土)、2023年6月17日(土)それぞれ午後1時30分より台東区民会館第1会議室。コロナ禍により変更有。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

アダムスキーはコンタクト70周年。私は、UFOに興味を持って50周年となります。大変重要な事に関わってきたと思っています。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第96号>

発行日 令和4年11月10日

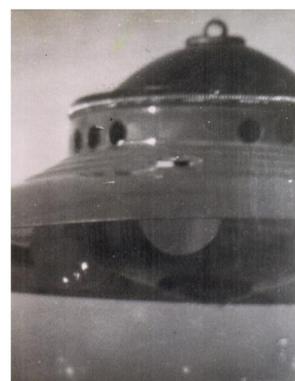
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

最近、気づいたことがあります。それは、地球上で求められる履修すべき事柄です。そのことを理解し実行しようと生きるならば、おそらく地球上での学習に成功したのだと思います。

それは何かというと、万物の背後に存在する偉大なる英知、意思に気づくということです。これは、すべての生あるものの指針となるもので、アダムスキー的に言えば、「宇宙の意識」のことです。そのことを強く感じられるとすれば、その人は「悟った」ということになります。

「悟」ことによって、様々なことがわかるようになります。自然との調和や自然から学ぶということ。そして、人間社会において、「思いやり」や「正しい道理」、あるいは「礼儀を尽くす」、「感じ知る」、さらに「人をあざむかない」ようになります。これは、仁、義、礼、知、信を重んじる人になっていくということです。これらのことは、言い方が異なるものの、日本では義務教育の道徳の時間などで教えられる事柄です。

このことが地球上における履修科目であるなら、山にこもる必要はなく、アダムスキーの「生命の科学」を知らなくても問題ありません。こうして、「生命の科学」を知らない人々が、たくさん進歩した惑星に転生していることでしょう。その人たちは、人々の中で暮らし、生活にとって好ましいこと、好ましくないことを学び、他者へよき影響を与えながら、おだやかに生きたのだと思います。

では、「生命の科学」の役割は何なのでしょう？ 本書に辿り着くのは、アダムスキーを知った人々やUFO問題に興味を持った人々、あるいは、良き生き方を求める人々ではないでしょうか。そして何より、スペースプログラムに縁のある人々なのだと思います。

「生命の科学」を学ぶ人たちは、普遍的な人間の生き方や価値観を知る人であり、スペースビープルから期待される人々として知られることでしょう。言い換えると、新たな時代を担う人々ということです。しかし、今はあまりにも非力です。今少しの間、非力ではあっても、この小さな火を燃やし続けることが求められているのだと思います。

言葉に注目

<宇宙の英知の無限の表現者>

G・アダムスキー著『生命の科学』（中央アート出版社）

これは、「生命の科学」レクチャー1の「人間の目的とは何か」とタイトルされた中での一文です。前段に「われわれは何かの理由または目的を持って生まれてきたという事実に関して疑問はあり得ません。」と書いています。これは、人類と広く捉えることもできますが、個人としても同様に捉えて良いと思います。私たちそれぞれが、存在理由を持っているのです。

そして、「人間の大きな目的は「宇宙の英知の無限の表現者」であるように思われます。」と説明します。この「大きな目的」とは、人類共通の目的を説明していると解釈できます。宇宙の英知とは意識の英知的部分で、その想いを表現することが人間の目的であると言っています。何とも素晴らしい解釈であると思います。正に、その通りであると感じています。

「生命の科学」学習のポイントPart97

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「人間にとっての最重要事」です。

初めに、人間にとって唯一の必要なことは、と書いて「現在人間が発している想念を直視して、それが宇宙の原理といかにか異なっているかを調べることです。」と書いています。つまり、人間の想念が「宇宙の原理と異なっている」ことを確認せよというのです。まず、ここがポイントです。

続く文章は、宇宙の原理との相違を認めながら、「だから人間は完全さを求めようとするのです。」と説明します。そして、「人間が宇宙の原理にたいして異物となっても、人間はどこかに完全さがあると感じています。」と語ります。意識が完全であることから、人間は完全さを求めるわけですが、これに対して人間は、「異物」と書いています。異物とは、しばしば取り除かなければならないものを示します。人間は、宇宙の原理に対してこの「異物」であるというのです。確かに、人間は、そうしたものであると思います。

先の「完全さがあると感じています」の、この感じが人間を完全さの方向へ引っ張ると説明し、「しかし最も安易な道を選ぼうとしてはこの状態に達することはできない・・・」と書いています。やはり道は険しいということです。

そして、「人間が自分の足を正しい道に乗せるや否や、目標に向かって本人の肉体細胞の化学的な構成が変化し始めます。」と書いています。これで苦痛や病気は消滅するというのですが、「正しい道に乗せる」とは何か？言葉にすれば、「宇宙の原理（意識）に対して全幅の信頼を寄せ信じ切って身を任せる」ことであると思います。それが可能なのは、「われわれ各人は「宇宙の意識」の中の単一細胞」だから、ということになります。これは真実です。ですから、意識を感じ取り、その指示に従えるように訓練する必要があるようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編97>

「青雲の志（せいうんのこころざし）」

立身出世を願う心。また、世俗を捨てようとする気持ちを指す場合もあるようです。ここに
ある「青雲」というのは、高位高官に上ることを言うようです。最近では、出世を拒む人が多
いようです。この言葉は、昔は生きた言葉でしたが、今では聞くこともありません。



Q：異星人はなぜ肯定されない？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：この太陽系を含め異星人の存在は確実です。しかし、これを認めると宇宙物理や経済問題、
最も難しいのは宗教との関係でしょう。地球上の基盤としていた仕組みや考え方が変化した場合、
対応できない人々が予想されます。それを利用して利権が否定しているようです。

書物紹介

『宇宙を超える地球人の使命と可能性』 木内 鶴彦 著 KKロングセラーズ

著者の木内さんは、臨死体験を3回、彗星発見を3回、彗星の再発見を1回された方です。
臨死体験時に自分の希望する所へ行けることを知り、未来や過去を探検するという稀有な経験
の持ち主です。その経験から発明を行い、ピラミッド建設やイエスのことまで伝えています。
特に、魂が抜け出た際の意識との関係の説明は、アダムスキーが伝えたことと同じであると思
います。内容には、一部に疑義もありますが、かなり興味の持てる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2023年6月17日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。詳し
くは、HPをご確認ください。

【編集後記】

師走は慌ただしく作業も多いものです。特に
今年は、記念誌発行を進めましたのでなかなか
大変でした。本紙も、どうにか間に合いました。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第97号>

発行日 令和 5年 1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人の心は、四つの感覚器官から出来ていて、その訓練を行わないことからエゴが中心となっています。その存在価値の低い“心”が、万物のそれぞれに影響を与えているのだろうか？ これは、最も基本的な疑問です。そこで、少し整理しておきたいと思います。

現状を見ると“心”に基づき活動している人間が、自然界や人間界に影響を与えていることは否定できません。つまり、心は、万物のそれぞれに影響を与えることができるということです。それは、なぜなのか？ 仮の姿である“心”。本来の姿に生まれ変わらなければならない心が、なぜ、聖なる万物に影響を与えられるのだろうか？

影響を与えられるということは、受け手にたいしての原因になれるということです。ここに原因と結果という法則が出てきます。極論を言えば、意識界には原因しか存在せず、その結果が万物（宇宙）の世界なのだと考えられます。この万物の世界には、二次的ながら物理的なものでの原因と結果（物理学）と、意識界を原因とする結果（神の表現）が存在していると考えられます。これが宇宙であり、宇宙の法則の源なのだと思います。

心が、エゴのもとで行うことは、前者の範ちゅうに入り、意識とつながって行うことは、後者に入るものと考えられます。従って、心は未成熟であっても、原因となって万物（結果の世界）に影響を与えられることがわかります。

同時に“心”は、自然界や人間界から多くの影響を受けて傷つき、学び成長して行きます。このように心は、結果（物）ともなるわけです。そこで、心の在り方として、物理的なもの（損得など）に価値を見出す人と、宇宙の意識を理解し心を委ねた人では、大きな差が出るものと思われれます。これは、創造主の意向を感じて生きたかどうかの違いとなるものです。

目に見えない意識が、目に見える万物を創造し動かしています。人間が意識とつながることで、意識が意図した宇宙（自然）を表現することができます。これこそが、人間の役割なのだと思います。これらのことを理解するには、「生命の科学」の深読みと実践が必要となるようです。

“言葉に注目”

<地球人の生活が“地上の地獄、みたいに存在するようになるとすれば・・・”>

G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、土星の母船内での会話です。この文章に続いて、「地球人はみずからを責めるべきです。」とあります。そして、次のように説明します。「他のあらゆる惑星と同じく地球も“ただ一つの聖なる創造者”によって生み出されたのであって、あらゆる惑星がそうであるように本来は一つの聖地です。」と。続いて、「・・・闘争、苦悩、悲痛などが人間と一緒になくなったとしたら、地球は美しくなるでしょう」。しかし、「人間が宇宙の万物とともに兄弟として生きる世界ほど美しいものはありません。」と語っています。

これは、現代の悲劇と重なります。人間が、他者を兄弟とみなして歩む世界ほど、素晴らしいものはないということです。これが、創造の目的とつながるからだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart98

今回は、レクチャー10『意識による旅行』の1回目、導入部分です。

はじめに、「第9講では、意識によって宇宙空間のどこへでも旅行し、存在する物を知る方法を説明しましょうと約束しました。」と書いています。続いて、「これはいままでよく知られてきたいかなる心霊的な方法をも用いるのではなく・・・神秘的な指導霊に身をまかせたりするものでもありません。」と断言します。

そして、「あなたが持っている唯一の権利は、創造主すなわち神の似姿であるあなたの半身を認めることと、それとともに活動することにあります。」と諭します。続けて、自己の半身でもある意識を見つける努力の重要性を強調します。「そうすれば、人間はあらゆる生命体との一体化を感じ、いま持っているような“永遠なるもの”との間の分離はなくなるでしょう。」と書いています。つまり、何度も書かれているように、意識との一体性が必要となるのです。

次に、「宇宙にはたえまのない科学的な変化が行われていて、ある段階の本体は次の段階の本体に吸収されます。」と書き続いて、「それゆえ人間は自己の個人的な本体を永遠に保とうとするのなら、本人は起こっている諸変化にたえず自身を託さねばなりません。」と書いています。これらを総称するように、「己を捨てて永遠の生命を得る」と説明します。

その後も説明が続きますが、つまり、宇宙の化学変化には統合と分散があり、個人的な本体を永遠に保とうとするのなら、統合しなくてはならない。ここでの統合とは、個人的な本体というところの“魂”（＝宇宙の意識）に自己のエゴを吸収させるということです。魂こそは、はめ絵パズルの一つとして、宇宙的に意味を有するものです。日本的に、ここでは魂と説明しましたが、魂は宇宙の意識の分け御魂です。宇宙の意識の一片であり、真の個性とはこの魂を言うのです。これは、一分子で大海(意識)と一体化しても自らを保つことができるのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編98>

“杓子定規(しゃくしじょうぎ)”

定まった一つの形式・基準・規則などにとらわれて、応用や融通の利かない例えです。昔の杓子の柄はひどく曲がっていて、それを無理に定規にしようという話から来ているようです。決まりは重要ですが、時と場合があり、あまりにこれでは社会生活がうまく行きません。



Q：宇宙時代は来ないのでは？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、時々出される質問です。アダムスキー亡き後、特別な事実はないのですが、私は“必ず来る！”と思っています。アダムスキーとオーソンの会見は、その始まりであったと理解しています。但し、地球側の理由でこう着状態です。しかし、遠からず動き出すでしょう。

書物紹介

『令和のエイリアン』 保江 邦夫・高野 誠鮮 著 明窓出版

サブタイトルに「公共電波に載せられないUFO・宇宙人ディスクロージャー」となっています。保江氏は、ノートルダム清心女子大学名誉教授の理学博士。高野氏は、元テレビ番組構成作家、元地方公務員、妙法寺住職です。この2人の対談形式で話が進みます。UFO宇宙人問題を始め超能力者との体験、聖者のような人の話など多岐にわたります。何より、高野氏の博識や行動力には驚かされます。参考までに読んで面白いと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2023年6月17日(土)、11月18日(土)午後1時30分より台東区民会館 第1会議室。詳しくは、HPをご確認ください。

【編集後記】

何事も行動が大切です。小さなことでも、アダムスキー支援になることなら行動して欲しいと思います。それが今、求められています。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第98号>

発行日 令和 5年 3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

“青い星、地球の役割とは何だろうか？と、最近、考えるようになりました。既に、ホームページの“宇宙に想う！”で書いているように、地球は、“魂の始まりの星であり出直しの星である”と理解しています。

魂が、宇宙の意識から分与され、この地球で初めて人としての生がスタートするということ。そして、その生を全うできず15～16回繰り返すと、その間の記憶はリセットされ再び地球に誕生するということです。アダムスキーによれば、当時、「30億の人間が地球表面から突然一掃されたら・・・おそらく全人類の99%は、永遠というものを知らないで消滅する・・・。」と言っています。これは解釈にもよりますが間違いないのは、地球上の99%の人々は永遠（宇宙の意識）を知らないということ、そして、転生の猶予期間が満期に達している人は記憶が消滅（リセット）されるということなのです。

このリセットの件を説明すれば、地球という星が、その役割を果たせていないということだと思えます。初めて誕生した魂や、リセットされた魂の意識レベルは高いことが推察されます。しかし、地球に誕生しなくてはならないのは、自然豊かな中で物理的な法則や、他者との関係など、人間として基本的なことを学ぶためだと思われれます。そして、生きるための指針とすべき“宇宙の意識”というものを認識することにあると考えられます。

つまり、地球の役割は、宇宙の法則に気づき宇宙の意識を認めるための星、言わば、いろはの星であると推察されます。ですから、この基本を理解しなければ、人として一歩も踏み出せないということになります。地球が、その役割を達成できないのは、エゴを喜ばす事ばかりに夢中になる社会であるということ、そして、教育も政治も経済もそのことに気づかず、むしろ悪用しているからだと考えられます。

地球が、8回くらいの転生で“宇宙の意識”に気づける星とすることが求められているのです。私たちは、全宇宙に通ずる“宇宙の意識”を認め、日々感謝して歩んでいきたいものです。

“言葉に注目”

<自分にとっての救世主は自分自身です>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

この文章の前に次の文があります。“イエスは次のように言っています。「各人は自分自身の重荷を背負っている。」”。そして、表記の文章になります。つまり、自分の負債を返す、あるいは役割を達成するのは、自分自身であるということ。自分で自分を助けないで誰が助けるのか？ というような意味も含んでいるようです。

しかし人間は、自分のことだけに囚われて“因”の中の一結果になり果てているので、“父の国”の中にある自身を発見する必要があるということ。これらは、第二の誕生に関連して説明しているところです。第一の誕生は物質界の理解力、第二の誕生が、“因”の理解力であり、これができれば父の世界を探求できるということ。す。

「生命の科学」学習のポイントPart99

今回は、レクチャー10『万物のあらゆる行動は宇宙に記録される』です。

はじめに、「あなたは今生においてさえ多くの体験のなかの一構成単位です。」と、過去世から今日までの全体のなかの個であると説明します。そして、「あなたが一肉体中にはらまれた日からこんにちまでのあらゆる脈搏は“宇宙の記録”の中に記録されています。」と伝え、「いかなる脈搏や行為もその“記録”から除外されてはいません。」と書いています。

この部分が、本項での中心的なところですが、これは、なぜなのかということには触れていませんので、まずは、意識の中にすべては記録されていると理解する必要があります。

そして、「心が意識と一体化すれば、それはこれまでの生活に起こった変化のすべてを再び見ることができるのです。」と書いています。続いて、一瞬たりとも自己の本体を分離させていないのに、何度も迷っている・・と言います。その理由は、“個性（心）は自分が何であるかに気づかない”からだと言います。また、個性は、一生涯で何度も変化すると書いています。ここは、個性（心）と意識の分離について、例を用いながら説明しているところです。

次に、「真の意味における個人主義者はこの世にほとんど存在しません。」と書き、そんな人がいても社会に入れず異端者であると説明します。しかし、「この世界の偉大な人々は異端者であった・・」としています。先ほどは、個性＝心でしたが、ここでは、個人主義という言葉にして、これは、真の個性であると読み取れます。つまり、自己を大切にすることから意識に忠実な人（心）になります。言い換えると、真の個性である魂で生きる人と言えそうです。

後半に、「物質世界はいわゆる精神的な不可視の生命界の“結果”である・・」ことを思い出すよう促し、目に見える物には不可視の支持者があると伝えます。そして、空間からも物質を取り出せると話し、そこにつながると宇宙空間を旅行する土台となると書いています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編99>

“毒を以て毒を制す（どくをもってどくをせいす）”

解毒のために他の毒を用いる。悪人を除くために他の悪人を利用するたとえです。西洋医学は、正にこの言葉に近いと思います。病を治すというより毒によって抑えるという感じです。世界情勢も、この言葉に近いと感じますが、今の地球にはとりあえず必要なのかもしれない。



Q：地球人の生き方にうんざりです・・・ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：真摯に生きていないという点で理解できますし、その感覚は正しいと思います。スペース・ピープルもそう感じているでしょう。しかし、彼らはあきらめていません。私たちも、その原因を良く調べながら、理解力と信念をもって歩んでいきたいものです。

書物紹介

『日本にやって来たユダヤ人の古代史』 田中英道 著 文芸社

著者の田中氏は、歴史学者ではなく仏文学や美術史を東京大学で学び、その後、フランスやイタリアで西洋美術を学んだ美術史研究の第一人者です。後年、日本美術の世界的価値に着目し、日本独自の文化・歴史の重要性を提唱しています。本書では、ユダヤ人が紀元前10世紀頃から西暦400年代にかけ、大きく5波となって来ていたと言います。これは、日ユ同祖論とは異なり、ユダヤ人が日本人に同化したと解釈されています。なかなか興味深い内容です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2023年6月17日（土）、11月18日（土）午後1時30分より台東区民会館 第1会議室。状況により変更があるかもしれません。HPをご確認ください。

【編集後記】

アダムスキー問題には進展がありませんが、宇宙開発には進展がありそうです。苦戦中の日本の宇宙開発に期待したいと思います。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第99号>

発行日 令和 5年 5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

このたび第100号「G・アダムスキー通信」（G ア通信）が発行となりました。国際アダムスキー普及会は、1996年7月1日に設立しましたが、本通信は、それより約10年遅く2007年1月に創刊となっています。当初は、不定期発行としていましたが、結局、2か月に1度の発行として今日に至っています。

発行当初は、宇都宮市での会合を行っていたのですが、東京方面からの参加者もいることから2007年7月20日から2か月に1度、東京浅草での会合を行うこととしました。会合については、コロナ禍以降、変則的となっていますが、どうにか年2回程度の会合を継続しています。

振り返れば、アダムスキーが伝えた事柄についての新たな展開もないまま、G ア通信の発行をはじめホームページ（HP）の掲載、そして会合などよく継続できたと思います。知人の多くは、アダムスキーを支持しているものの、新たな展開はないものとあきらめ、行動するより静かに座す方々が多いようです。それでも1年前より、または5年前より、あるいは10年前より自分が少しでも進歩しているのであれば良いと思います。

私自身について言えば、特に、ここ数年間、多くの発見があり、アダムスキーの言の正しさがより理解できるようになりました。これらは、G ア通信の発行や HP への掲載など無関係ではありません。これらの実施によって、私自身が、貴重なものを発見し進歩できているように感じています。

「G ア通信」第100号に際して、ここで改めてお伝えしたいと思います。それは、アダムスキーを肯定する事態が必ず起こることです。その主な外形的な理由は次の通りです。

1 地軸の傾きと関連する事態が起きる。 2 地球以外の住人は他の太陽系へ移住した。
3 地球製宇宙船が近隣惑星へ到達できるようになった。 4 地球人の“生”が常道を逸し危険である。 詳細は省きますが、アダムスキー問題とは、「今後の展開」が最重要であり、そのために進められてきたと知る必要があると思っています。

“言葉に注目”

<こんな暗黒の中に住んでいるこの人間とはだれなのでしょう？>

G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、土星のマスターの言です。そして、大変重い言葉です。なぜなら表題の後に、「それは、“不滅なる者”に奉仕しなかった救われざる者です！」と語っているからです。

この前段でマスターは、「すべてのフォーム（万物）は“唯一の至上者”に対する奉仕者にほかならない・・・」と語っていて、万物それぞれの役割、調和ということについて、地球人は、生き方を学ぶべきレッスンに失敗したと、はっきりと語っています。

この前後に語られる内容は、誰でも理解しやすいような話し方で、しかも大変深遠なものとなっています。本来求められる生き方ができない生き物を何というのか？ これは、「宇宙からのメッセージ」として、暗黒をさまよう地球人にとって、光へ向かう重要な内容となります。

「生命の科学」学習のポイントPart100

今回は、レクチャー10『意識が心を拡張させる』です。

この冒頭で、「心の拡張とは何でしょう？」と書いています。表題は、「意識が心を拡張させる」です。この“心”とは、エゴに相当する四つの感覚器官により作られた部分です。それを意識が拡張させるという意味です。

このためには、「知識を得ようという欲求が基礎」とならないといけないとあります。そして例を挙げ、宇宙空間の星々を見るために“望遠鏡”が発明されたと語ります。これは、光点をもっと詳細に観察するための「一種の視野の拡張」であると説明します。つまり、知ろうという欲求が発明につながったということです。

この“機械の目”が知識を拡張するのを助けた」と語り、この行動は、「地球以外に生きる場所をもっと沢山ありますよ！」と人間に語っているのだと言います。そして時代とともに遠方を見る技術が発達し、電波望遠鏡がもっと多くの知識を伝えてくれると書いています。

この辺のところから、人間の進歩や発展というのは、小から大へ、内から外へ、地球から外へと展開していくようになるかと教えています。

そして、「人間の各感覚器官は自分自身にしか関心を起こしませんので、意識というものがなかったら右の発達は望めなかったでしょう。」と書いています。続いて、「人間の不可視の部分であるこの意識なるものは、万物の生命の因子をますます探求せよと人間を促します。」と語ります。

しかし人間は、因から分離してしまったので、自己が重要な存在であることや人間の義務は宇宙空間に存在する物について知ることだと忘れていて。そこで、意識は観測装置を作成させ、宇宙を探検するようにせき立てていると言っています。これが表題の意味となります。

宇宙に“生きる”

<名言格言編100>

“男は度胸 女は愛嬌（おとこはどきょう おんなはあいきょう）”

男にとって大切なものは物事に動じない強い心。つまり度胸であり、女にとって大切なものは明るくてかわいらしい魅力、つまり愛嬌であるということをご口合わせていったものです。しかし、今の時代、このようなことを言うと差別主義者であると言われてしまいそうです。



Q：テレパシーは公認されているの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：テレパシーについては、古くは、福来友吉元東大教授や宮崎音弥東京工業大学名誉教授のように、心理学の分野から様々な実験を行い肯定していた人々がいます。しかし、実験結果が常に同じ条件で同じとは限らず、賛同者も少ないことから公認までには至っていません。

書物紹介

『ショック・ドクトリン』 堤 未果 著 NHK出版

本書は、本年6月、NHKのEテレで行う講座のテキストですが、幻冬舎からも、やや中身を変え出版されています。著者の堤さんは、世界の裏側で行われている強欲な動きを人々に知らせています。ここでは、ナオミ・クラインさん著「ショック・ドクトリン」をベースに、いかに世界が大きなショックを受けた後に、新自由主義に則り裏の意図をもって変えられてきたかが書かれています。絶妙な表現が、NHKで取り上げても問題ないとされたのかと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2023年11月18日（土）、2024年3月16日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。HPをご確認ください。

【編集後記】

本紙100号となりました。拙文の時もありますが、もうしばらくは、継続しようと考えています。皆様、ご支援をお願いいたします。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第100号>

発行日 令和5年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）